



出 雲 の 心 友 会 祖 霊 廟

# 先祖供養について

先月号で祖霊大祭について書かせて頂き、その中でも先祖供養の大切さを述べ

ましたが、今回はもう少し具体例をあげてお話をしてみたいと思います。

# 心友会だより

第 3 7 1 号

昭和44年6月1日創刊  
 平成17年4月8日発行  
 発行所及責任者  
 川崎市多摩区東生田4-13-17  
 電話番号 044-976-0708  
 郵便番号 214-0031  
 宗教法人 出雲心友教会  
 兼 宗 教 法 人 佐 藤 武 彦  
 編集 毎月8日1回発行  
 1部150円 (送料共)  
 年間購読料1,800円

私たちがお祀りさせて頂

いている御守護神は、言うまでもなく大國主大神様であります。御神徳は数多くありますが、意外と知られていない御神徳にあの世(幽世)を司られている神様であるという「現実」があります。

人間は、肉体的なその死をもってすべてが終わるわけではありません。分霊としての靈魂は、死後五十日は地上にとどまりますが、以後、生きざまによって行く場所が違います。そして最後には、生き残った子孫の御供養によって神の列へ行く事ができるのです。

つまり、御供養が充分であれば神の列へ入る事ができ(成仏でき)そこから祖霊として私たち子孫を二代守護して下さいます。

それでは「霊のさわり」についてはどうでしょう。大國様から会長先生への御

霊示によれば「幽世は顕世の鏡。顕世のことは幽世のこと。人間死んで楽になれると思うと大間違い。ただ自分で業を果たし徳を積むことができるだけ」とのことなのです。

他の新興宗教などでは、霊の存在を利用して「あなたの家で病人が絶えないのは先祖がたたっているからです」と言ったりして法外なお金を請求して入信させたりする悪質なところがあるようですが、考えてみるまでもなく、そんなおかしな話はありません。

なぜなら、神は私たちの心の親ですし、先祖は肉体的に考えてみて下さい。もし、病気や何かのトラブルで悩んでいる子孫がいたとしたら、一日も早く良くなつてほしい、一刻も早くそうした悩みから脱してほしいと願うのが親心であつてたたるというのは、全く筋が違ふというのがおわかりになれると思います。

確かに、先祖霊から発せられるサインというものはあります。それが俗にいう

「さわり」というもので、決して「たたっている」わけではありません。あくまで供養してほしいというサインなのです。

たとえば、父親が女狂いをして母親が苦しみ、自分もいやな思いをしたとすれば、誰でも自分はそのいう事はしたくないと思うでしょう。ところが、その父親や母親の亡きあと、その供養をしっかりとやっておかないと、自分もまた同じ事をさせられてしまうのです。

それはなぜかと言うと、現世に対して強い執念や妄念を持つている霊というのは、幽世の大神である大國主大神のおぼしめしを受けられず、霊界の低いところで、いわば「待機」の状態におかれてしまっているからです。そして、その間中現世に執念や妄念の靈波を送り続けているのです。これが霊のサインとなるわけです。

先程も述べましたが、肉体を失って霊となつてしましますと、自力で業を果たし徳を積むことができませぬ。ですから私たちが、霊

にかわつて業を果たさせて頂く、これが御供養ということになります。

つまり、日々の供養の中で、私たちが幽世の大神である大國主大神の靈波を頂き、それを靈界で迷っている先祖の霊に送り返してやる事によって、亡くなった人の霊は清まつて、現世に對する執念や妄念はなくなるのです。それは、最終的に神の列へ上げて頂ける事を意味し、私たちにサインを送ることもやめるようになります。これが、因縁切りなのです。

先祖供養とは、有名な神主や住職にお祓いしてもらつたり、お経をあげてもらつたりして済む問題ではありません。もちろん節目節目には、それも必要でしょう。しかし、日々の御供養は残された子孫が真心でさせて頂くのが本来の姿なのです。この事は、自分に置きかえて考えてみれば、すぐにわかると思います。

大神様に感謝、そして御先祖様に感謝、これが信仰の基本なのですから……。